

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者：90歳代 性別：女性 介護度：要介護4

病名：アルツハイマー型認知症

利用サービス：入所

経過：当老健と2階回復期の入所と入院を繰り返されていた方。R4年3月に再入所。前回入所時までは歩行器歩行見守りレベルであったが、今回入所時は両下肢の浮腫著明にあり、歩行器歩行・立ち上がり・トイレ動作など重介助となっていた。

内 容

ご本人ご家族様ともに当施設を気に入って下さりリピート希望の利用者さんです。

4回目の入所当初は車椅子で短い距離の自走は可能だが、表情は乏しく活動性が低下した状態であった。

2週間後頃から食思の低下が目立ち、食事をほとんど召し上がらなくなった。

補食をつけて、食事介助するがあまり食べられない状況が続き、約1ヵ月後にご家族に対し現状をお話しし、当施設で最期を過ごされることを選ばれ看取り契約された。

甘いものが好きなお本人のために、ご家族には甘いものの差し入れを提案。

持参いただいたショートケーキを介助にて召し上がることができた。

食事介助も無理にはせずあくまでもご本人の意思を尊重した関わりを心がけた。

コロナ禍で基本的に外出などできない状況であったが、リハビリの時間など短時間での外気浴なども行った。

すると徐々に自力で摂取されるようになり、食事摂取量が増えていった。

表情も良くなり発語も現れるようになった。

入所当初は二人介助していたトイレ動作も、一人軽介助で行えるようになった。

高齢で食事摂取できず、看取りとなったが、「ご本人の意思を尊重」「好きなことをしてもらい食べてもらう」「無理強いほしくない」といった関り、ケアの実践を徹底したことで、このような結果になり現在も笑顔で過ごされている。

こういった関り、ケアを実践することは当然ではあるが徹底して行うことは難しい。しかしケアの基本であり大事なことであり改めて考えさせられた症例であった。